



そだてよう福祉の心 ひろめよう福祉の輪

No. 9

2009. 04

社会福祉協議会情報

ふれあい

福智町社会福祉協議会

- ・特集 「人権と福祉のまち」を推進するための
アンケート調査 結果報告 ————— 2~11
- ・住民座談会のお知らせ ————— 12



久六地区住民座談会の様子

このふれあいは皆様からの共同募金、寄附、賛助会費によって作成されています

100円

古紙配合率100%再生紙
を使用しています



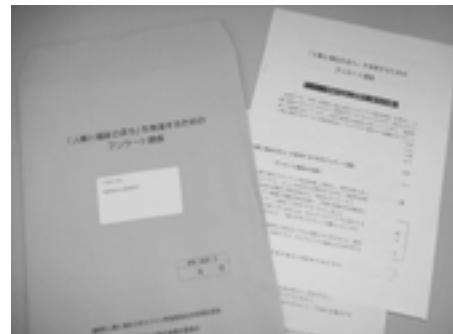
福智町社会福祉協議会 地域福祉活動計画 策定ニュース ②

福智町では現在、行政と住民、関係機関が協働して「人権と福祉のまちづくり」を進めており、平成19年度に「人権と福祉のまちづくり総合計画」を策定しました。しかしながら、地域では様々な福祉問題が山積みし解決に至っていないのが現状です。そのため福智町社会福祉協議会では「地域福祉活動計画」を策定し、具体的な活動をおこなっていこうと考えています。

その計画をつくるために昨年11月より12月にかけて、20歳以上の住民の1割にあたる2053人を対象としてアンケート調査をおこないました。また今年の3月からは、各地区におきまして住民座談会を開催し、福祉に関する地域の問題や課題を十分に把握した上で計画を推進していきたいと考えています。今回の策定ニュースでは、昨年おこなったアンケートの結果を報告します。

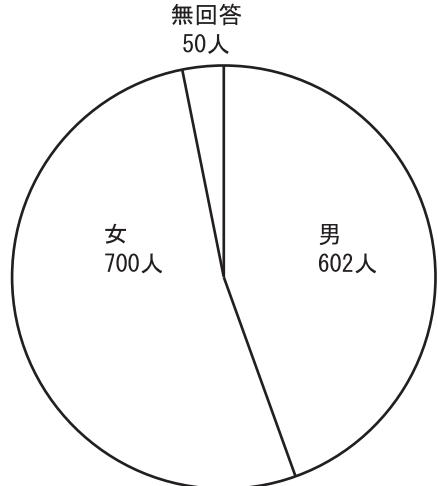
「人権と福祉のまち」を推進するための アンケート調査 結果報告

アンケート配布数 2053
アンケート回収数 1352
返却（拒否・不在・未回答）493
不能（長期不在・入院・転出・死亡等）208

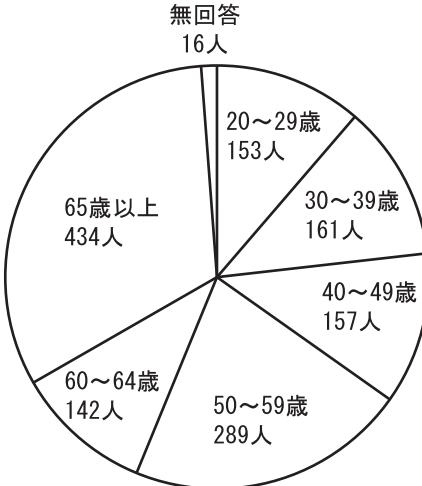


※パーセント表示については、小数点第2位を四捨五入しています。

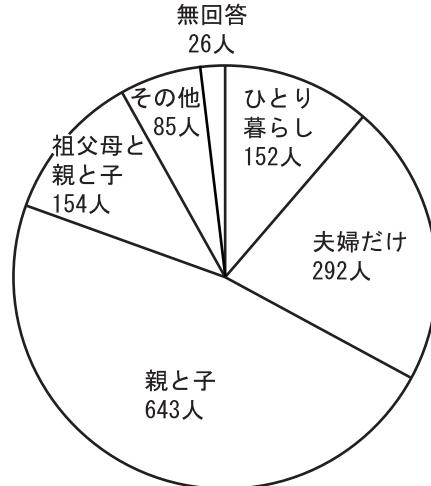
問1 男女比



問2 年齢層



問3 家族構成



今回のアンケート回収数1352人のうち、男性は602人、女性は700人とやや女性の方が多い結果となりました。また年齢は20歳代が153人、30歳代が161人、40歳代が157人、50歳代が289人、60～64歳が142人、そして65歳以上の人434人という結果になりました。

家族構成では親と子の「二世代世帯」が643人と全体の47.6%を占め、次に夫婦だけの「一世代世帯」が292人で21.6%、祖父母と親と子の「三世代世帯」が154人で11.4%、ひとり暮らしの「単身世帯」が152人で11.2%となっています。

「人権と福祉のまち」を推進するためのアンケート結果

問4 あなたは、毎日の暮らしの中でどのようなことで困ったり、不安に感じたりしていますか。あてはまるもの3つまで○をつけてください。また、さしつかえなければ、カッコ内に具体的な内容をご記入下さい。

1 自分の健康に関すること

※複数回答につきパーセンテージは回答者数をもとにそれぞれの項目で計算しています

775人 (66%)

2 親や子どもに関すること

305人 (26%)

3 子育てに関すること

145人 (12.3%)

4 介護に関すること

437人 (37.2%)

5 近所づきあいや近隣の人間関係に関するこ

142人 (12.1%)

6 災害に関するこ

242人 (20.6%)

7 防犯に関するこ

407人 (34.6%)

8 その他 121人 (10.3%)

一番多い回答は「自分の健康に関するこ」であり、全体の66%にあたる775人(1352人中)も人が不安に感じていることが分かりました。次に「介護に関するこ」を不安に感じている人が37.2%の437人、「防犯に関するこ」が34.6%の407人、「親や子どもに関するこ」が26%の305人と続いています。

問5 あなたは、毎日の暮らしの中で困ったり、不安に感じたりしたとき主に誰に相談しますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 家族や親戚

959人 (70.9%)

2 近隣の人や知人・友人

175人 (12.9%)

3 町内会役員、民生・児童委員

10人 (0.7%)

4 役場や社会福祉協議会窓口

18人 (1.3%)

5 相談相手がいない

55人 (4.1%)

6 その他 46人 (3.4%) 無回答 89人 (6.6%)

主な相談相手として「家族や親戚」をあげる人が、全体の70.9%の959人でした。次に「近隣の人や知人・友人」をあげる人が12.9%の175人と、まずは身内の人や知り合いの人を相談相手としていることが分かりました。また「相談相手がいない」人も4.1%の55人います。

地域福祉活動計画 策定ニュース ②

問5－1 問5で「1家族や親戚」に○をつけた方にお伺いします。
家族や親戚以外で相談する人がいますか。

1 家族や親戚以外ではいない

263人 (29.4%)

2 近隣の人や知人・友人

559人 (62.4%)

3 町内会役員、民生・児童委員

18人 (2%)

4 役場や社会福祉協議会窓口

34人 (3.8%)

5 その他 22人 (2.5%)

問5で相談相手はまず「家族や親戚」と回答した959人のうち、家族や親戚以外の相談相手としては、「近隣の人や知人・友人」をあげる人が62.4%の559人となり、「家族や親戚以外ではいない」という人が29.4%の263人になることが分かりました。問5や問5－1をとおして、地域の役員や民生・児童委員、また役場や社会福祉協議会窓口などの公的機関を相談相手としている人は非常に少ないことが分かりました。

問6 あなたが日頃困っていて、手伝ってほしいと思っていることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

※複数回答につきパーセンテージは回答者数をもとにそれぞれの項目で計算しています

1 心配ごとの相談相手や話ができる仲間づくり

180人 (21.4%)

2 買い物や掃除、洗濯、食事の世話

113人 (13.5%)

3 病院等への通院

173人 (20.6%)

4 外出時の車等による送迎

89人 (10.6%)

5 日常の金銭の受取り、支払い

57人 (6.8%)

6 役場等への届出や連絡

130人 (15.5%)

7 外出時の子どもの世話

42人 (5%)

8 急病になったときの看病や家族の世話

340人 (40.5%)

9 ゴミだし

45人 (5.4%)

10 その他 164人 (19.5%)

手伝ってほしいと思っていることでは「急病になったときの看病や家族の世話」が最も多く40.5%の340人となっています。次に「心配ごとの相談相手や話ができる仲間づくり」が多く21.4%の180人となっています。また3番目には「病院等への通院」が20.6%の173人となりました。

「人権と福祉のまち」を推進するためのアンケート結果

問7 あなたは、隣近所の人とどの程度おつきあいがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 お茶のみや手助けなど家族同様に、頻繁に家の中まで行き来している
161人 (11.9%)

2 外で会うと世間話や情報交換など、立ち話をするつきあいである
667人 (49.3%)

3 町内会等の集まりで顔を合わすぐらいで、ほとんど話したことがない
230人 (17%)

4 顔もよくわからず、ほとんどつきあいがない
150人 (11.1%)

5 その他 57人 (4.2%) 6 無回答 87人 (6.4%)

隣近所の人とのつきあい方ですが、「家族同様につきあっている」人は11.9%の161人でした。「立ち話をする程度」の人が最も多く49.3%の667人となっています。「顔をあわす程度」「顔も知らない」といった人が、合わせて28.1%の380人いました。

問8-① 何かあったときに、地域住民どうして助け合う意識がありますか。

1 ある
599人 (44.3%)

2 ややある
374人 (27.7%)

3 あまりない
204人 (15.1%)

4 ない
90人 (6.7%)

5 無回答 85人 (6.3%)

地域の住民どうして助け合う意識は「ある」と答えた人が最も多く44.3%の599人になりました。「ややある」と答えた人は27.7%の374人でした。助け合う意識は「あまりない」「ない」と答えた人は合わせて21.8%の294人いました。

問8-② 「公民館・集会所などを福祉活動の拠点にしてはどうか」との意見がありますが、どう思いますか？

1 そう思う
899人 (66.5%)

2 そう思わない
292人 (21.6%)

3 無回答 161人 (11.9%)

地域の公民館や・集会所など身近な場所を福祉活動の拠点として賛成の人は66.5%の899人でした。公民館や集会所は福祉活動の拠点には向かないと考えている人は21.6%の292人でした。

地域福祉活動計画 策定ニュース ②

問8-③ 福祉サービスを利用するとき、世間を気にする傾向がありますか。

1 ある

133人 (9.8%)

2 ややある

263人 (19.5%)

3 あまりない

396人 (29.3%)

4 ない

455人 (33.7%)

5 無回答 105人 (7.8%)

福祉サービスを受けるのに世間を気にする傾向が「ある」人は9.8%の133人でした。また「ややある」人は19.5%の263人になりました。世間を気にする傾向が「あまりない」「ない」人は、合わせて63%の851人になりました。

問8-④ 「年老いた親の面倒は、子どもがみるのが当たり前」と考える傾向はありますか。

1 ある

523人 (38.7%)

2 ややある

424人 (31.4%)

3 あまりない

198人 (14.6%)

4 ない

137人 (10.1%)

5 無回答 70人 (5.2%)

年老いた親の面倒は子どもがみるのが当たり前と考える傾向が「ある」人がもっとも多く38.7%の523人いました。また当たり前と考える傾向が「あまりない」「ない」と回答した人は、合わせて24.7%の335人いました。

問8-⑤ 福祉の問題についての懇談会や研修会などが地域で行われていますか。

1 よく行われている

74人 (5.5%)

2 あまり行われていない

547人 (40.5%)

3 まったく行われていない

467人 (34.5%)

4 無回答 264人 (19.5%)

地域で福祉の問題についての懇談会や研修会がよく行われていると感じている人は、5.5%の74人にとどまり、75%にあたる1014人が地域においては「あまり行われていない」、「まったく行われていない」と感じているようです。

「人権と福祉のまち」を推進するためのアンケート結果

問9 あなたは、地域生活のあり方として最も大切なことはどのようなことだとお考えですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1 あまり人にたよらず、自分たちでできることは自分や家族でやっていくべきである。
(主に自分や家族)
451人 (33.4%)
- 2 日常的な生活でできる範囲のことは、隣近所でお互いに助け合い、時間や手間のかかることについては行政の福祉サービスに任せるべきである。 (近隣と行政)
324人 (24%)
- 3 日ごろから地域内で協力しあえる地域のボランティア活動等を育成し、困ったときには互いに頼れる仕組みづくりを進めるべきである。 (主に近隣)
189人 (14%)
- 4 日常的な生活で困ったことは、行政に相談すれば、町の福祉サービスで対応できる体制を整えていくべきである。 (主に行政)
275人 (20.3%)
- 5 その他 15人 (1.1%) 6 無回答 98人 (7.2%)

地域生活のあり方として「あまり人にたよらず、自分たちでできることは自分や家族でやっていくべき」と回答した人が33.4%の451人と最も多く、2の「時間や手間のかかるについては行政」や4の「困ったことは行政に相談すれば、町の福祉サービスで対応」ように行政の福祉サービスにも期待していることが分かります。

問10 あなたは、災害時や緊急時における要支援者（助けを必要とする人）の安否確認支援を行うための体制は、次のどれがよいと思いますか。1つだけに○をつけてください。

- 1 行政が要支援者を把握し、責任をもって支援を行う
253人 (18.7%)
- 2 地域の事情に詳しい民生・児童委員を中心に支援を行う
66人 (4.9%)
- 3 町内会を中心とした助け合い活動の中で、要支援者を把握し支援を行う
244人 (18%)
- 4 社会福祉協議会が中心となり、地域ボランティア活動の中で支援を行う
70人 (5.2%)
- 5 行政、民生・児童委員、町内会、社会福祉協議会の連携を深め、新たなネットワークを構築し支援を行う
457人 (33.8%)
- 6 わからない
156人 (11.5%)
- 7 その他 12人 (0.9%) 8 無回答 94人 (7%)

「行政が責任をもって要支援者を把握し支援を行う」、「町内会が中心となって要支援者を支援する」が250人前後いました。また「関係機関が連携を深めネットワークを構築し要支援者の支援を行っていくべき」と回答した人が33.8%の457人いました。災害時・緊急時には関係機関の連携や、事前のネットワークづくりが求められているようです。

地域福祉活動計画 策定ニュース ②

問11 あなたは地域福祉を推進するため、今後何が必要だと思いますか。3つまで○をつけてください。

※複数回答につき/パーセンテージは回答者数をもとにそれぞれの項目で計算しています

- 1 福祉意識を高めるための広報、啓発の強化

302人 (24.3%)

- 2 身近な場所での相談窓口の充実

532人 (42.8%)

- 3 住民が気軽に参画し、利用できる地域ごとの福祉活動の拠点づくり

582人 (46.8%)

- 4 地域における福祉活動の活動費や運営費に対する資金助成

283人 (22.8%)

- 5 地域福祉活動を推進する地域リーダーなどの人材育成

235人 (18.9%)

- 6 ボランティア、NPOなどの育成支援

136人 (10.9%)

- 7 学校教育や社会教育での福祉教育の充実

336人 (27%)

- 8 高齢者、障がい者、児童の福祉施設の整備充実

620人 (49.9%)

- 9 その他 25人 (2%)

地域福祉を推進するため必要なものとして、「高齢者、障がい者、児童の福祉施設の整備充実」をあげた人が49.9%の620人、「地域ごとの福祉活動の拠点づくり」をあげた人が46.8%の582人、「身近な場所での相談窓口の充実」をあげた人が42.8%の532人となりました。福祉施設の充実をはじめ、身近で気軽に利用できる福祉活動の拠点や相談窓口などが求められているようです。

問12 あなたの地域の民生・児童委員をご存知ですか。

- 1 名前も顔も知っている

356人 (26.3%)

- 2 名前は知っている

149人 (11%)

- 3 名前も顔も知らない

776人 (57.4%)

- 4 無回答 71人 (5.3%)

地域の民生・児童委員を「名前も顔も知っている」人は26.3%の356人でした。「名前は知っている」人は11%の149人でした。「名前も顔も知らない」と回答した人は、57.4%の776人になりました。

「人権と福祉のまち」を推進するためのアンケート結果

問13 民生・児童委員がどのような役割を担っているかご存知ですか。

1 よく知っている

71人 (5.3%)

2 だいたい知っている

397人 (29.4%)

3 あまり知らない

641人 (47.4%)

4 民生・児童委員という名前も知らない

153人 (11.3%)

5 無回答 90人 (6.7%)

民生・児童委員の役割を「よく知っている」人は5.3%の71人、「だいたい知っている」人は29.4%の397人でした。また役割を「あまり知らない」人が最も多く47.4%の641人になりました。民生・児童委員という名前も知らない」と答えた人は、11.3%の153人いました。

問13-1 問13で [1よく知っている] [2だいたい知っている] に○をつけた方にお伺いします。 民生・児童委員に一番何を期待しますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 地域住民の相談役

179人 (41.1%)

2 地域の要支援者の見守り

78人 (17.9%)

3 生活保護関連の事柄

33人 (7.6%)

4 青少年非行防止

42人 (9.7%)

5 関連機関との橋渡し役

71人 (16.3%)

6 情報の発信役

20人 (4.6%)

7 その他 12人 (2.8%)

問13で民生・児童委員の役割を「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した468人のうち、民生・児童委員に期待することで最も多いのは「地域住民の相談役」で41.1%の179人でした。続いて「地域の要支援者の見守り」「関連機関との橋渡し役」となっています。



地域福祉活動計画 策定ニュース ②

問14 社会福祉協議会が行っている事業をご存知ですか。下記の事業で知っている事業すべてに○をつけてください。

※複数回答につき、パーセンテージは回答者数をもとにそれぞれの項目で計算しています

1 配食サービス事業

762人 (66.4%)

2 福祉バス運行事業

962人 (83.9%)

3 生きがいデイサービス事業

358人 (31.2%)

4 移送サービス事業

122人 (10.6%)

5 在宅介護支援センター事業

451人 (39.3%)

6 ふれあいサロン事業

52人 (4.5%)

7 小中学生ボランティア事業

103人 (9%)

8 介護レスキュー事業

36人 (3.1%)

9 心配ごと相談事業

334人 (29.1%)

10 子育てサロン日本語教室

103人 (9%)

11 生活福祉資金貸付事業

131人 (11.4%)

12 学童保育「かえるの学校」

353人 (30.8%)

13 ふれあい安心箱配布事業

42人 (3.7%)

14 合同慰靈祭

238人 (20.7%)

15 住民福祉講座

181人 (15.8%)

16 福祉教育読本の配本

65人 (5.7%)

17 ホームヘルパー派遣事業

554人 (48.3%)

18 ケアプラン作成事業

161人 (14%)

19 情報誌きずな、ふれあいの発刊

334人 (29.1%)

20 福祉委員設置事業

74人 (6.5%)

21 ふれあい健康ウォーキング

325人 (28.3%)

22 葬祭事業

348人 (30.3%)

23 ボランティア活動推進事業

171人 (14.9%)

24 小地域福祉活動事業

58人 (5.1%)

社会福祉協議会が行っている事業のうち、「配食サービス事業」や「福祉バス運行事業」は60%をこえる人が知っていました。その他で30%をこえる認知度がある事業は「生きがいデイサービス事業」「在宅介護支援センター事業」「学童保育かるの学校」「ホームヘルパー派遣事業」「葬祭事業」でした。一方5%未満とほとんど知られていない事業は「ふれあいサロン事業」「介護レスキュー事業」「ふれあい安心箱配布事業」でした。

問15 社協だより「きずな」を町広報誌と一緒に毎月全世帯に配布していますがご存知ですか。

1 毎月読んでいる

326人 (24.1%)

2 目にしたときは読んでいる

560人 (41.4%)

3 配布されているのは知っているが読んでない

168人 (12.4%)

4 まったく知らない

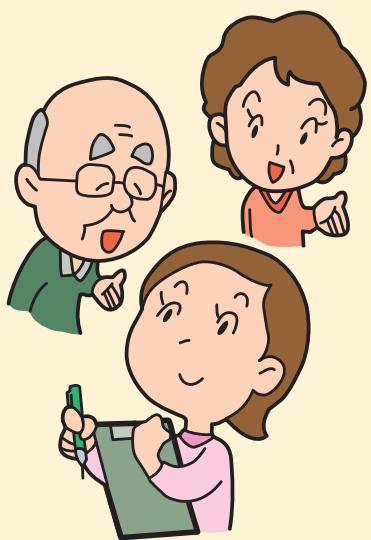
226人 (16.7%)

5 無回答 72人 (5.3%)

社協だより「きずな」を「毎月読んでいる」人は24.1%の326人、「目にしたときは読んでいる」人は41.4%の560人と最も多く、「読んでいない」「まったく知らない」人は合わせて、29.1%の394人でした。



地域福祉活動計画
を策定しています



あなたの地区で

じゅう みん ざ だん かい

住民座談会を開催します

福智町社会福祉協議会では、昨年アンケート調査を実施し、住民の皆さまの「日常生活での課題」や「問題点」・「困っていること」などをあ聞きいたしました。今後さらに詳しく地域での課題や問題点などをあ聞きし計画に反映していくため、それぞれの地区において住民座談会を開催いたします。

住民座談会では、皆さまの福祉に関するご意見やご要望をお聞きするとともに、住みよいまちをつくるために必要なことを皆まとともに考えていきたいと思います。どうぞお気軽にご参加いただきますようお願いします。

- 福智町区ごと（81区）に開催を予定しています。
- 平成21年3月～6月に開催します。
- 地域の公民館または集会所で開催します。

地区での開催日が決まりましたら、チラシでお知らせいたします。
どなたでも参加できます。どうぞお気軽にご参加ください。

編集後記

今回のふれあいでは、昨年の暮れにおこないましたアンケートの結果を掲載いたしました。アンケートにご協力・ご回答いただきました皆さん、誠に有難うございました。今回の結果報告は単純集計といいまして、設問ずつ全回答者を対象とした集計結果です。策定委員会では今後、男女別、年齢層別、地区別などさまざまな角度からアンケート結果を見つめ、さらに分析を進めていきたいと思っています。

また、表紙に載せました写真は2月22日（日）にモデル地区としておこないました久六地区の住民座談会の様子です。50名の住民の方にお集まりいただき、お茶を飲みながら和やかな雰囲気のなか、さまざまな意見を出し合っていただきました。今後は上記で紹介いたしましたように地区の役員の方と打ち合わせをしながら、福智町区全81区で開催をしたいと考えています。どうぞ開催の際には、ご近所お誘いの上ご参加ください。（高）



赤い羽根共同募金にご協力ありがとうございます。本誌は共同募金の配分金によって作成されています。

社会福祉協議会情報 ふれあい 第9号

平成21年4月発行

編集・発行 福智町社会福祉協議会 地域福祉課

所在地

〒822-1201 福岡県田川郡福智町金田1154番地2

TEL: 0947-22-3778 FAX: 0947-22-6678

ホームページ <http://wel-fukuchi.net/>